



代表取締役社長
植平 秀次さん

「あなたに出逢えて
本当によかった」
経営理念のもと

会社設立当初は側溝の蓋(ふた)「グレーチング」が主力製品だった宇陀市大宇陀大東の植平工業株式会社は、平成20(2008)年に実兄から代表取締役社長を引き継いだ植平秀次さん(58)が新しい経営理念に「あなたに出逢(あ)えて本当によかった」を掲げた。新商品を開発し、新しいお客さんと巡り合い、全ての人から信頼を得ることを目標にしている。災害関連商品のほかクルーザーの浮き桟橋、高所作業用 Gondra、鋼製鳥居、焼き芋機、そしてキャンプ用品のブランド名「ピッツバーグ・アウトドア・スチールワークス」を大々的にネットで売り出した。常に10年先を見据えて、新商品の開発・製造にまい進している。

Made
in
奈良

宇陀市 植平工業株式会社

元々植平コンクリート工業として、昭和48(1973)にグレーチングの自主生産を開始したのが始まり。その後、分社化して植平グレーチング工業となり、落石防護柵や鋼製張出歩道などコンクリート製品に付属する製品に手を伸ばした。

ただ、グレーチングは公共事業の影響も受けやすい。平成10(1998)年1月には、グレーチングを社名から外して現在の社名に変えた。公共事業に連動し、商品もグレーチングからコンクリートのふたに変わった。高価なものであるというのがネックとなっていた。

そこで、植平さんが目を付けたのが災害関連の製品。「溝に掛かっているグレーチングを立てて、これに両側の壁を作って、そこに掘削の土砂を放り込んでダムにしていたらどうだろうか。その壁をグレーチングで。水は溜めずに流してしまっただけを止める。砂防ダムのような商品を作らせていただくとになり、災害関連の方に一気に走っていきました」と振り返る。

公共事業の発注は年々下がっていく。逆に災害は増えていく。10年前の紀伊半島大水害では十津川村、広島の大都市部で河川の氾濫(らん)による水害、地震による災害があり、水害防災に使う関連

商品がどんどん売れ始めた。「防災という観点で金属商品が使われるようになり、売り上げがなんとか維持できました」と植平さん。

公共事業依存体質からの脱出。植平さんが社長に就任してすぐ、各部門から1人ずつ選出し、社内の新製品開発委員会を立ち上げた。商品製作から販売、輸送コストを含め話し合う場にした。いろいろなアイデアを出しながら1つの商品を熟成させていく。そしてインターネット販売で商品として世に送り出すシステムができた。

クレーン付きトラックのクレーンの竿(さお)の先にかごを付けて、高所作業ができるようなかご「高所作業用 Gondra」、鋼製鳥居、ヨットやクル



焚き火台ファイヤーピット(和風七輪)

常に10年先を見据え新製品開発 新ブランドのキャンプ用品や焼き芋機など



浮き桟橋

ーザーの浮き桟橋など。客層が全く違う。

あとは、焼き芋機。「タピオカが2年前にヒットしたでしょう。その食品を扱っている友人から『タピオカの次にくるのはなんだ』という話がありまして、営業会議で60歳代、70歳代の方が若い時にスィーツやと思って食べていたものが、今の若い子たちには目新しいのじゃないか、今後流行るんじゃないかなあ」と植平さんが思い付いた。それが、焼き芋機だった。

すぐに焼き芋機を試作して、インターネットにアップした。すると、初年度(去年)の売り上げが約400万円。1台4万円で100台近く売り上げた。「今はコロナ禍。『家に持って帰って食べようか』という方もおられるのかな、と思います。あるいは『本業がうまいこといかなので、副業で焼き芋屋でも。軽トラックでそれを積んで売り歩くということをしよ』と思ってる」という人も多かったですよ」と話す。

最近ではキャンプ用品が人気。キャンプブームも手伝い、新しくブランド「ピッツバーグ・アウトドア・スチールワークス」を立ち上げた。天然ヒノキ材とを組み合わせたアイアンテーブル、極厚鉄板、焚き火台ファイヤーピット、焚き火用ファイヤーピラミッド、同スタンドなど。売り上げは初年度で500〜600万円。宇陀市のふるさと納税の返礼品でトップクラスに顔を出す。

ネズミ捕りの大きなタイプのインシシの捕獲檻(おり)も、一般によく売れているという。コロナ禍でも新商品開発が続々と進む。利益率は前年比30%増。製品づくりでは、顧客に対して使いやすい品物にアイデアを絞り込む。

社員に対しては「福利厚生に関して地域でナンバーワンを目指そう」とも。残業が多いイメージの製造業。残業を無くす取り組みを心掛けている植平さん。「たとえば、たった20数人の会社ですけど、改善提案が月に50〜60件出てきます。そんな会



○創業=昭和48(1973)年3月
○代表取締役社長=植平秀次
○従業員数=24人(パート含む)
○資本金=1000万円
○事業内容=製缶、鋼製土木資材、板金
○本社住所=宇陀市大宇陀大東203-1
○電話番号=0745(83)3011
○ファクス=0745(83)3045

社なかなかないですよ」と誇らしげに話す。

社長の夢は「今の業態がベストやと思ってる。まず大手のお客様のOEM(他社ブランドの製品を製造すること)と自社ブランドとを半分ずつ製造する。波もありますけど、それでバランスがとれていると思ってる」と答える植平さん。

加えて「OEMで常に仕事がある。自社ブランドについてはいろいろ発見があって、お客さんと巡り合えるという面白さがある。社員40人、50人になってきて顔も分からなくなってきたら困りますので。ある程度の利益を確保して、今の25人までの体制でやっていくかなと思います」と顔をほころばせる。



<https://uehira.com>